



「無意識の偏見」を意識しよう

実質的な夏休みもあと1週間ですね。有意義な時間を過ごせているでしょうか。

さて、「校長室だより第25号(多様性について考える)」では、多様性を認め、受け入れる「受容力」を高めることが大切だと述べましたが、今号ではこのことに関連し、「無意識の偏見」について考えてみたいと思います。

■聞こえてきた声 (AC ジャパンのCM)

公益社団法人「AC ジャパン」(かつての公共広告機構)のラジオCMにハッとさせられました。それは、①「キッチンで夕食の支度をする人がいます。」や、②「パイロットになる夢を発表する子どもがいます。」といったナレーションが流れたあとで、「想像したのは男性の姿ですか？女性の姿ですか？ 無意識の偏見に気づくことから、はじめませんか。」と締めくくられます。不覚にも、①は女性、②は男性の姿を思い浮かべてしまいました。まさに私自身の「無意識の偏見」(アンコンシャス・バイアス、unconscious bias)に気づかされたのです。

アンコンシャス・バイアスとは、自分自身が気づかずに持っている偏った見方や考え方のこと。当然ながら、「キッチンで夕食の支度をする男性」や「女性パイロット」はたくさんいるはずですが、私のように「夕食を作るのは女性」、「パイロットは男性」ということを無意識のうちに信じ込んでしまっている人は多いのではないのでしょうか。そうした偏見は、様々な場面で問題を引き起こす可能性があります。例えば、かつては「男子厨房に入らず」と言われ、男性が台所に立って料理をしたり片づけたりするべきではないという考え方が強かったわけですが、そうした考えをもった人からすると、食事を作る男性を「情けない」と思い、罵るかもしれません。また「女だてらに」とか「男まさりの」という言葉がありますが、女性がパイロットを目指すといったら、そうした言葉を使って非難したり、あきらめさせたりする人がいるかもしれません。



また、「校長室だより 25号」で、近くのアパートに外国人がたくさん入居すると聞き、治安が悪くならないか心配していた友人の話を紹介しましたが、これも外国人に対するアンコンシャス・バイアスが働いた例と言えます。そういう私も新しいALTに対して「日本語がお上手ですね。」とか、「箸を使えるんですね。」などと言ってしまったことがあります。これは「日本に来る外国人は日本語を話せたり、まして箸をうまく使えたりするはずがない」というアンコンシャス・バイアスによるものと言えます。気を付けたいですね。

【参考 URL】「聞こえてきた声」(AC ジャパン) https://www.ad-c.or.jp/campaign/self_all/self_all_02.html

- ・テレビCM https://www.ad-c.or.jp/campaign/self_all/video/02.mp4
- ・ラジオCM https://www.ad-c.or.jp/campaign/self_all/audio/02.mp3
- ・新聞広告 https://www.ad-c.or.jp/campaign/self_all/images/news_02.jpg

■性に関する偏見

性に関する偏見を「ジェンダーバイアス」と言います。これは、無意識のうちに男女の差や役割、また性的マイノリティなどの人々について偏見をもつことを指します。現代においても「男性は女性よりも優位である」という偏見から、男性が優遇され、女性が不利益を被ることがあると言われています。例えば帝国データバンクが行った女性の登用に関する企業意識調査

(2022年)によると、女性管理職割合の平均は9.4%とのこと。男女間の賃金の格差も容易に想像できますね。こうしたことは、日本だけに見られることではありません。だからSDGsの目標5「**ジェンダー平等を実現しよう**」が設定されたわけです。



【参考 URL】

- ジェンダーバイアスとは・意味 (IDEAS FOR GOOD)
<https://ideasforgood.jp/glossary/gender-bias/>
- 女性登用に対する企業の意識調査 (2022年) (帝国データバンク)
<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/p220813.html>

言葉に見られるジェンダー差別



例えば日本語の職業を表す言葉を考えてみましょう。今はあまり使わないかもしれませんが、「**女医**」という言葉があります。もちろん女性の医者のことです。では男性の医者は何と言いますか。もちろん「**医者**」であり、「**男医**」とは言いません。これは、かつて医者は男性の職業であり、女性が初めて医者になった時にあえて女性であるということを表すために「**女性の医者**」＝「**女医**」という言葉が作られたと考えられます。この「女医」という言葉は男性中心の社会における特別な存在ということを暗示し、時に差別的なニュアンスが含まれます。他にも「**芸人**」(男性) ⇔ 「**女芸人**」(女性)、「**作家**」(男性) ⇔ 「**女流作家**」(女性)、「**俳優**」(男性) ⇔ 「**女優**」などの言葉がありますが、女性を表す言葉は全て男性を表す言葉から作られています。(ただ最近では女性に対しても「俳優」という言葉が使われるケースが増えてきたように思います。)

逆にかつて使われていた「看護婦」という言葉は、「婦」が付いていることから分かるように女性だけの職業でした。近年男性が看護に従事するケースが多くなり、「**看護師**」が使われるようになりました。(一時期、男性看護師を「**看護士**」と呼ぶことがあったようです。)



英語では、女性を表す名詞に“-ess”で終わるものがあります。actress (女優) は、まさに日本語と同じで、actor+ess (女性の俳優) という構造になっています。god (神) ⇔ goddess (女神), lion (ライオン) ⇔ lioness (雌ライオン), waiter (ウェイター) ⇔ waitress (ウェイトレス), prince (王子) ⇔ princess (王女), host (主人) ⇔ hostess (女主人) なども同様です。しかしこうした言葉は男女平等、ジェンダーフリーが叫ばれるようになり急速に消えつつあります。例えば stewardess (スチュワーデス) は flight attendant や cabin crew (客室乗務員) に代わり、chairman (議長) は“-man”が男性をイメージさせるということで chairperson が使われるようになりました。さらにアメリカ・カリフォルニア州サクラメントでは1990年以降、manhole (マンホール) の公的な名称として maintenance hole (メンテナンス・ホール) を使用しているとのこと。徹底していますね。

■アンコンシャス・バイアスへの対処法

※かつて県外の友人に言われた言葉です。

性別以外でも、例えば「**眼鏡をかけている人は真面目**」(容姿)とか「**富山県人はスキーがうまい(はずだ)**」(出身)、「**校長先生は話が長い**」(職業)など、皆さん自身も多くのアンコンシャス・バイアスを抱いているかもしれません。これは、子どものころから家族や学校、地域社会などにおける価値観などによって刷り込まれてきたものです。しかし、そうした偏見は時に差別やハラスメントを引き起こしてしまいます。皆さんには、1学期終業式で述べたように、本質は何かを見抜く目を養ってほしいと思います。相手を受け入れ、相手のことを知ろうとする気持ちを持ち、客観的な事実から適切に相手を判断する姿勢を忘れないでください。「**校長室だより第25号**」で述べたように、多様性を受け入れ、お互いを思いやり、誰にとっても平等にチャンスがあり、全ての人輝ける、そんな社会を実現するためにも、アンコンシャス・バイアスを意識し、しっかり対応していきましょう。

南砺福野高校「校長室だより」ご質問・ご意見投稿フォーム

下の URL をクリックするか、右の QR コードをスマホ等で読み取ってください。

<https://forms.gle/VNcvKUZbYPWsj8nj7>

